

インドネシア国立シャークアラ大学リザール総長ご一行を招聘し、神戸、アチェ、東日本大震災の教訓の共有を図りました（2015 / 3 / 13-16）

テーマ：第3回国連防災世界会議、パブリック・フォーラム、2004年インド洋大津波

場所：東北大学災害科学国際研究所、情報産業プラザ多目的ホール、東京エレクトロンホール貴賓室、他

災害科学国際研究所では、インドネシア国立シャークアラ大学よりサムスル・リザール総長、ハイルム・ムナディ同大学津波防災研究センター所長、ムハンマド・ディルハムシャー同大学大学院災害科学プログラム長を招聘し、2004年インド洋大津波の被災地インドネシア国アチェ州と東日本大震災被災地との間での復興経験やその教訓の共有を図りました。災害科学国際研究所では、同大学数理学部と2014年に部局間協定を締結しています。

リザール総長一行は、3月14日、防災教育交流国際フォーラム「レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して」（於 東北大学川内北キャンパスマルチメディア・ホール）において、防災教育分野におけるアチェの経験を発表しました（詳細は防災教育交流国際フォーラムのアクティビティレポート参照）。

3月15日には、神戸大・岩手大・東北大主催の被災地大学連携シンポジウム「住民主体の災害復興と大学の役割—東日本大震災の教訓と神戸・アチェ・四川との比較」にて「スマトラ大津波10年と大学の役割」について発表されました。同フォーラムでは、災害科学国際研究所より、村尾 修 教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が所長代行として挨拶を行い、姥浦道生 准教授（地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野）から「東日本大震災からの復興計画プロセスに関する教訓」についての発表が行われました。

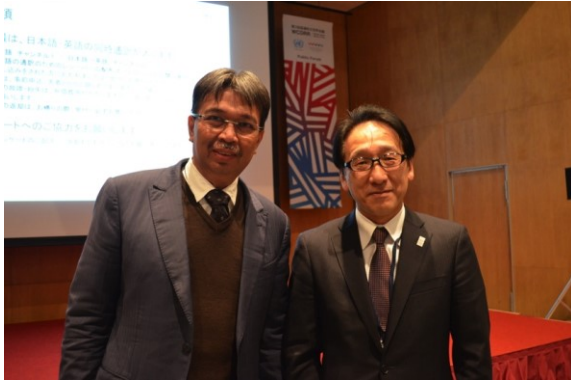
同日午後には、リザール総長一行は、東北大学復興シンポジウムの会場である東京エレクトロンホール宮城貴賓室に里見 進 東北大学総長を表敬訪問しました。里見総長への表敬では、第3回国連防災世界会議でのパブリック・フォーラムの様子や、今後の大学間連携の可能性等について懇談しました。

3月16日には、リザール総長一行は、災害科学国際研究所にて開催された座談会「巨大災害からの復興と連携（東北・アチェ・神戸を繋ぐ）」に参加され、「荒浜再生の会」、「山元町震災復興土曜日の会」、「雄勝町の雄勝地区を考える会」他、東日本大震災の被災地における住民主体の復興活動に取り組む関係者との意見交換を行いました。同座談会は、トヨタ財団「2004年スマトラ大津波からのバンダ・アチェ復興10年の検証!—復興から学ぶ大規模津波災害への備え—」の一環として企画され、塩崎賢明 神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室 名誉教授の進行、田中泰雄 同大学 名誉教授のコーディネートによって進められました。災害科学国際研究所からは、桜井愛子 准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）、マリ・エリザベス 助教（人間社会対応研究部門 防災社会国際比較研究分野）が参加しました。同座談会には、国連防災世界会議参加のため仙台訪問中のシャークアラ大学関係者やピッツバーグ大学災害管理センターのルイス・コンフォート 教授を含め、44名の参加の下、被災地の復興と被災地連携について活発な意見交換が行われました。

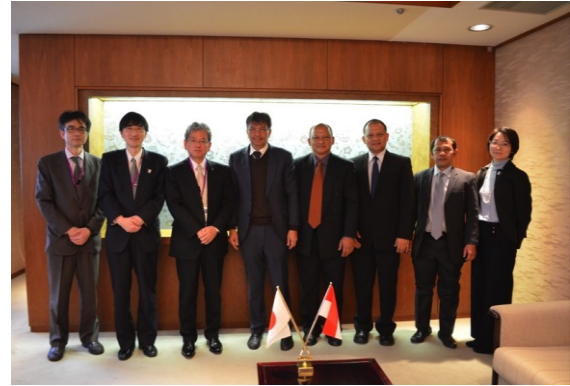
これらの活動を受けて、引き続き、シャークアラ大学との共同研究や、内外の被災地連携の展開について検討を続けていく予定です。

文責：桜井愛子（情報管理・社会連携部門）

（次ページへつづく）



リザール総長と今村所長



表敬訪問での記念撮影

(左から3人目：里見総長、4人目：リザール総長)



座談会（3/16）での参加者集合写真